

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵稅共五十錢）



和清山香 餘軒編  
會社 所行發  
所刷印

### 日本の同化力

集鴨學園長文學博士 遠藤隆吉

本文は十一月廿一日午後一時より三時間に亘り講堂に於て行はれた特別講義の抄録である。

各國の國民性は其の國の神話によつて表現せらるゝものである。神話と云ふものは大古より其の民族の口によつて傳へられたものであるから其の國民性を飾り無く現はして居るものである。夫れ故に神話は其の國の國民性を研究する上に大きな價值があるものである。我が國の神話は古事記に記されてあるが如く天地の創成に當つて神々が生じ給ひたるものである事を示して外國の神話にある如く神が最初より天にあつて是が人間を造つたと云ふのではない。即ち我國の國民性は生々の過程にあるものである。生々の過程とは英語の Becoming Process 獨語の Werden と云ふ意にして生成を意味するのである。英語の Nature と云ふ語は自然と譯するが是れは Natur 或は Naturs により來つたもので生れると云ふ意味である。此の如く我民族性は生々の過程である。産神即ちむすびの神とあるは矢張り物を生ぜらるゝ神であつて即ち我國民性の生々の過程を表現するものである。我民族はかうして次第に生々増加して民族を形成したのである。民族とは Chao とか Genus, Gattung と云ふ言葉と同様では是等の言葉は Gattung より出たもので是れは矢張り「生ずる」と云ふ意味である。一子本より生じた民族が集つて民族を造つたものである。大國主の神の御子が百八十人あつたとかたがみむすびの神の御子が千五百人あつたとか傳へられる

は是れ皆民族の数を意味するのである。民族には其長たるものがあり是れを氏の長者と云ひ長者より分れた民族を氏子と云ふ。子と云ふ言葉は小を意味するもので今日も東北地方には小さい物を意味する時には其の言葉の終りに「子」を附して用ふ。例へば小さい机は机と云ふが如し。即ち其の氏に屬する小さい者であるから氏子と云ふのである。後世になつて氏の長者を祭る様になり是れより氏神が出來其の氏神に屬する氏子が出來たのである。そこで氏子其の祖先の靈を祭つた氏神に參詣する事となり子孫が生れた場合には其の子孫を氏の長者に見せるために氏神に詣る。是れを御詣りと呼ぶ。そこで我國民性としては生糸を非常に尊ぶ事となり此處に民族制が成立したのである。民族制は獨り我國のみでなく歐洲に於ても昔は民族制が行はれたのである。舊約全書の中には祖先を尊ぶ事、兩親に仕へる道等を記載してある。尙又祖先の靈は火の中に在るとして火に仕へる民族があり、又ベルシャには火を禮拜する拜火教があり、是等は何れも祖先を禮拜するものであつて民族制の存在を示すものである。然し外國に於ては世態の變遷が烈かつた爲に遂に民族制が無くなつて自己を尊ぶと云ふ事になり遂に其國體觀念が全く異なるものとなつたのである。

我が國に於ては其の根本は畏れ多くも皇室であつて是れより多くの枝が分れて色々な民族が出來たのであるから此の多くの民族が集つて我が國體を造つたのである。そこで各民族の氏神の根本は伊勢の大神宮と謂ふ事になるのである。此の如き民族制によつて今日我が國を爲して居るものは世界廣しと雖も我國を除いて他に其の比を見ないものである。是れが我國の万国に秀で、尊い所以である。從來ある國家は是れを分類する時は權力國家と契約國家との二つになる。權力國家は云ふ迄も無く權力者が主權を握つて國家を成立して居るものである。此の國家に於ては其主權者が公平無私にして其權力を專にする事なく其國民の爲に盡す場合に於ては非常に優良なる國家となる。是れに對して契約國家なるものがある。是れは國民の間に一定の契約を設けて其の國民中より主權者を選挙して國家を治めるものであつて今日の共和政體の國々は是である。此の國家には所謂政黨なるものが出來従つて其主權者は自らの屬する政黨の爲に國家の政治を行ふ事が往々あつて公平無私にして其國民の爲めをのみ思つて政治を行ふと云ふ事が少くなる。それが爲に其國民は其政體を欲して居らない場合が多い。例へば現今の佛國（France）と云ふ政黨があつて頻りに帝政を回復しようと思つて居る。實際古くから傳統的の皇帝の系統の方々は上品にして公平無私の人格を備へた方々が多い。特に羅馬系の人々に斯る人格者が多い爲にかゝる人格者を皇帝に奉戴し帝政を復興させたならば必ず公平な政治が行はれる事を期待して居るのである。是等の政黨の人々は今回の滿洲國に於て帝政の復興を心から祝福し且つ非常に羨しく思つて居るのである。

續つて我が國體を見れば此二つの何れにも屬さない。全く世界無比の國家である。茲に於て始めて道德國家と謂ふのが出來たのである。我國體に於ては既に叙述した如く民族性によつて國家が成立して居る。即ち畏れ多くも我が天皇陛下は一家族の一人であらせらる。夫故に天皇陛下が政治を行はせ給ふ場合には國民の爲めと云ふ以外に何事も思召されぬのである。國民も又陛下に命を捧げるのみである。此の如くして始めて眞の樂土である國家が成立したのである。是れが即ち道德國家である。是れより本論に入つて我が國民の同化と云ふ事に就いて叙述しようと思ふ。我が國に最も古く傳來した宗教は佛敎である。是れは欽明天皇の代である。佛敎は其の經文が頗る難解にして普通一般の佛敎信者には殆んど佛敎を理解して信者となつて居るものは少いと思ふ。彼の華嚴經と云ひ般若經と云ひ大藏經と云ひ何れも大部に於て一通り讀了する丈でも容易なる事ではない。佛敎に於ては佛を禮拜するものであり我が民族は、其の氏神を禮拜するものであるから之の點は兩者矛盾する處である。然し佛敎に於ては其の祖先を佛として祭る様になり茲に於て佛敎

は我が國體觀念と同化して佛敎を信じて少しも我が國體に反する様な事が無くなつたのである。佛敎徒も佛に參詣する事を祭る事に於ても亦同様に同化されたものである。元來孔子の教は孝を主として説き忠は餘り述べて居らない。殊に孟子に至つては我國體觀念に一致しない處もある。然し是等の教も時を経るに従つて何時しか同化せられて佛敎を學んだかゝりとなつてしまつたのである。耶蘇教及び西洋思想に於ても亦同様である。我が國體は（明徴されて）我が國民が悉く我が國體の如何なるものであるかと云ふ事が充分によく知つて居る等々の思想の中より我が國體に悖らない處文を取つて他は是れを捨て、是等の宗教及思想を同化すれば何等の憂ふる處は無ないのである。茲に於て我が國體の明徴と云ふ事は最も重要な事となるのである。諸君は將來我國の中堅となる社會に於て活動するものであるから能く我が國體の万国に優れて尊い所を知り此の考を以つて世人を導く様努力しなればならぬのである。

山本三六郎著  
化學純絹絲 工業的完成  
伊太利蠶絲 原因と其の衰退  
菅原勇治著  
蠶絲業法規要論  
現況改正  
市田上縣野長  
會究研學科絲蠶 所行發  
〔振替長野6413番〕

現代乾繭機界ノ王座  
大和式自動輸送乾繭機  
二五九六年代表型  
製作發賣元 株式會社 大和三光商會  
東京京橋區京橋三丁目二番地 電話京橋(56)五三二〇番  
營業課目  
特許大和式自動輸送乾燥機  
特許大和式自動人絹乾燥機  
特許帶川三光式乾燥裝置  
特許やまほイロ  
特許サウナー式濾過淨水裝置  
特許サウナー式廢湯吸熱器  
特許サウナー式高壓ポンプ  
特許サウナー式トラップ

速記者のノートから

一記者

代議員會に於て速記者のペンに書留められた會話の内ユーモラスな處文をチエツクして見た。ユーモラスは同時に不謹慎と云ふ事に相通する。本稿を見て代議員會なんてこんなフザけたものかと思はれては困る。神聖なカチクな議場に於て漸く見付け出したユーモアの全部が僅か之れ丈と云ふ譯である。速記録の抜萃であるから全く根も葉も無い事は書いて無い。然し面白くする爲めに幾らか前後したり云ひ現し方を變へた處はある。なるべく當り障りは無い様に書いた積りだが書き方の下手な爲めに御機嫌を損する處があつたら幾重にもお詫して置く。

千枚氏議長に指名され就任挨拶の爲め登壇す。

私は數年前の代議員會に於て議長に選ばれた事がありました。其時私は一世一代の光榮に感じ私が死んだら墓石に千曲會代議員會前議長と刻む様遺言状を作つて置きました。然るに計らずも此の名譽ある議長に再び就任する事が出来たのは皆様の御同情に依るものと深く感謝致します。實は昨日私に議長の内交渉があつた時餘り出過ぎると思ひ辭退しましたら、今回の代議員會は午後から開始するので時間が無い。君の様ならうさいのが居ては議事が進行しないから議長に祭上げるのだと云ふ事でありました。之れでは嫌なので私は交換條件を出しました。議事の向に依り議長で無く一代議員として發言したい、處が副議長が無いとそれが出来ぬ、それで副議長を置いて貰ふ事にしました。その條件の下に議事が紛糾せぬ限り議長を引受けました。紛糾した時は議席に下る事を御承知願ひます。……議事に入る前に皆様にお詫りしたい事があります。それは

廿五周年祝賀の催しが斯くも好成績にて終了した事は母校の方々、加ふるに千五百名の卒業生諸君、那市當局に負ふ處多きは勿論であります。最も絶大なる功勞者は千曲會本會及在田の卒業生諸君であると思ひます。本來ならば今夜遊り盛大なる慰勞の宴でも張つて勢を痛ふ所でありましたが連日の美酒に厭かれてゐる、御多忙でもある、お疲れでもある、又今夜は音楽會もあると云ふ様な譯で物質的の御禮は不可能な状態にあるから甚だ残念ではあります。が精神的の御禮文に止める事として代議員會の決議を以つて議長より御禮の言葉を申し上げ度いと思ひますがどうですか……。

芝氏開會頭提出問題に關係ありとて緊急動議を提出して曰くである。

千曲時報に對しては絶えず忠言を呈してゐる。昨年頃より編輯方法は大部よくなつたが未だなつてゐない。特に記念號の拙なる何んとも云ひ様が無い。私憤を云ふ譯では無いが私の原稿を没にした理由は何處にあるか。本府でその原稿を朗讀し諸君の批判を仰ごうと思ふ。……が然し時間が無いのでやめて置く(原稿は持つてお出でにならぬ筈である)。要するに千曲時報編輯の方針を聞き度い。之は特に編輯主任者の答辭を要求する。答辭に依つて再び質問するかも知れない。

群馬(橋本氏) 校長吹込のレコードを作り度いと思ひます。表面に校長先生の聲を吹込み裏面に校歌を入れると云ふ様方法はどうですか。本會(久保氏) それは買手が問題であります。少くとも千枚纏らねば出来ませぬ。群馬(橋本氏) 卒業生は大抵買つてせうし私が高鷲本多校長のレコードを二枚

買ひました様に卒業生以外の人も相當買ふてせうから千枚は樂に出来るてせう。千枚氏は……(此の時議席各所に爆笑起る。東海芝氏千枚々々と叫ぶ。高島議長答辭す。)

同窓生の問題に就いて山陽小川氏緊急動議を提出して曰くである。

……役員選舉の同時期にその委員も選定して載き度い。その人数は六、七名とし千枚氏、芝氏の如き押の強い方々を是非加へて載き度い。

千曲會館は學校(寄附したとは云へ學校で建てたものでないから不幸にして火災等に會つた場合に文部省で建て、は呉れまい。故に千曲會で保險を掛けて置く必要は無いかと云ふ問題の處で千枚氏發言して曰く

……保險は學校で掛けて貰ひ受取人は千曲會と云ふ事にして……は千枚式迷論と云ふ可きである。

最後に之は代議員では無いが記念學術講演會に於ける講師の講演の幕切に於ける大見得二つを掲げて擲筆する事とする。肝甚な本文は確にとれぬくせに大見得の様な餘計な處文完全に書取れる處に速記者の速記者たる値打があると云ふものである。

その一つは纖維工業學會櫻田博士の『人造絹絲とコロイド化學』の講義の幕切れである。

……近き將來に於て必ずや天然纖維に、より勝る人造纖維を作り得る確信を有して居ります。次は日本蠶絲學會小原博士の『蠶絲構造に關する最近の研究』と題する講演の幕切れである。……私のやつてゐる實驗が實際に上何んの役に立つか云ふ人があるかも知れないがそれに就て次の事柄を申し上げて

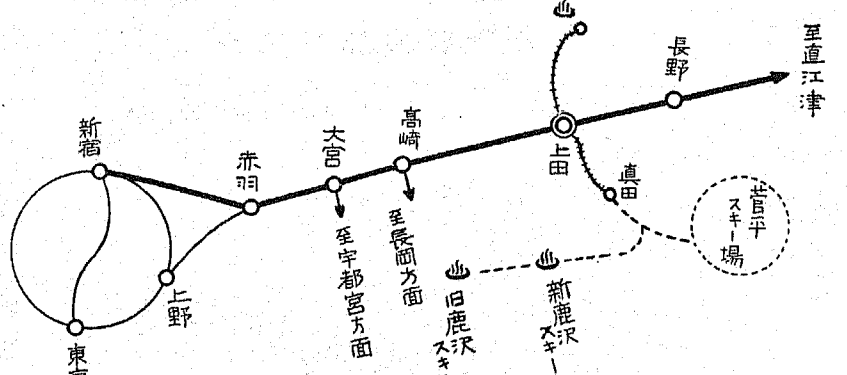
講演を打ち度いと思ひます。昔アラデーと云ふ人が毎日實驗室に閉ぢ籠つて水をガラスコから試験管に移し又試験管からフラスコに移しておました。或人が之を見て『そんな事を毎日して一體何んの役に立つのか』と問ふた。するとアラデーは言下に『赤ん坊は何んの役に立ちますか』と云ふた。そう

である。斯くの如き實驗は赤ん坊である。現在は何んの役に立たないがそれが成人した時には如何なる功績を立てるか譯らない。と云ふて私の實驗が偉大なものであると云ふ意味ではありませぬ。之は一般の語です。現在何んの役に立たぬ實驗こそは最も尊ぶべき實驗であります。

上信高原

菅平と鹿澤スキー場

菅平スキー場は、上田市外長村にある海抜約千三百米の上信高原の猪岳(海抜二一九五米)と四阿山(二三三二米)の頂上から緩く曳いた雄大なスロープで、雪の王者シユナイダ、氏がスキースのシユワルツ、ワルドに彷彿たりと激賞した所でありました。積雪期間は十二月中旬から三月下旬迄で、全部芝生の高原ですから僅少な雪量でも快い粉雪で何時でも滑走が出来ます。



●菅平スキー場は、上田市外長村にある海抜約千三百米の上信高原の猪岳(海抜二一九五米)と四阿山(二三三二米)の頂上から緩く曳いた雄大なスロープで、雪の王者シユナイダ、氏がスキースのシユワルツ、ワルドに彷彿たりと激賞した所でありました。積雪期間は十二月中旬から三月下旬迄で、全部芝生の高原ですから僅少な雪量でも快い粉雪で何時でも滑走が出来ます。

●新鹿澤温泉と舊鹿澤温泉スキー場は、群馬縣吾妻郡嬬恋村にある上信高原の淺間連峯海抜二千米級の十餘峯兩温泉場を中心に聳立し、雄大なスロープは數軒に涉つて展開されて居ります。

●交 通 東京、名古屋、大阪各鐵道局管内主要驛から菅平及新鹿澤舊鹿澤スキー場へは(汽車、電車、自動車を含む)割引があります。

●宿泊設備

△菅平 (旅館) 菅平ホテル、鐵道省山の家、高原ホテル、其他數軒 (農家) 宿泊設備備ひたる家約五十戸 (收容力) 旅館、農家共に約三千人 (宿泊料) 一泊三食付、旅館一圓八十錢、鐵道省山の家並農家一圓十錢

△新鹿澤温泉 (旅館) 鹿澤館、鹿鳴館、増屋、小増屋 (收容力) 約一千人 (宿泊料) 一泊三食付、一圓八十錢

△舊鹿澤温泉 (旅館) 紅葉館 (收容力) 四百人 (宿泊料) 一泊三食付、一圓八十錢

●貸スキー 各ホテル、旅館、農家等に貸スキーの設備があり、一日一臺料金二十錢

●通 信 菅平臨時郵便局開設 十二月二十日から三月卅一日まで、スキーヤーの便を計り菅平ホテル前に臨時郵便局が開設され一般の郵便事務を取扱ひ致します。

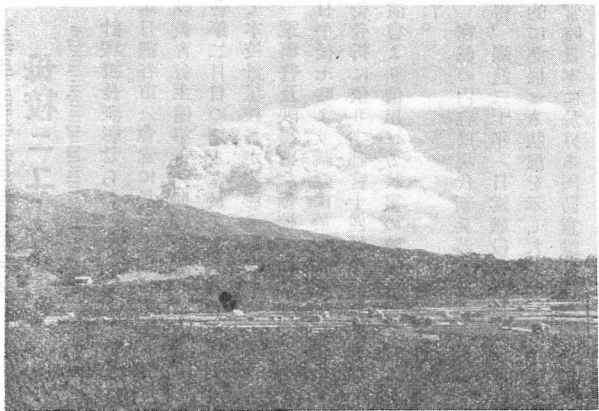
上田市北天神町 上田温泉電軌株式會社 (電話上田六五四九五)

上田便り

織物生産引續き活況 上田織物同業組合十月中の織物生産高は絹織物三、六四四點一万四千三百二圓、絹綿交織物四點七圓、毛織物六點七二圓、其他十點五十七圓、計三、六六四點一万四千四百三十八圓にて前年同月に比し五二二點二千三圓の増産であつた。原因は生絹と縮緬の賣行良好に依る。

淺間山大爆發 暫く沈黙を護つてゐた淺間山は十一月七日午後零時八分大音響と共に爆發し輕井澤地方一帶四十分亘り小豆大の降灰あり爆發直後鬼押出の中腹邊から熔岩流出し山麓一帶は一時間半に亘つて山火事があつた。今回の爆發は近來にない大きなもので火山館觀測所の地震計に感じた震幅は東西〇、一耗南北〇、一〇九耗總震動時間三十分であつた。引續き三時三十分再び爆發し黒煙天に沖し壯觀を呈した。此の降灰は遠く帝都に迄まき散らしたやうであるが淺間山附近の上田市は唯その壯觀を見物させて貰つ

怒つた淺間山(母校より) 養蠶科齋藤利雄氏撮影



た丈で降灰一つ無かつた。

上田の恵比壽講 上田の恵比壽講は十一月二十日午前三時から各商店一齊に開店猛烈な販賣戰が展開された。商工會議所屋上へは信電寄附の二万燭光始め市内各町に輕氣球を形どつた千燭光百數十燈を燈じて不夜城と化し、郵便局前へ積重ねた聯合大福引百五十俵の米俵、其他數萬點の大小景品、市内大商店の屋外飾物チンドンや其他の廣告戰術で先着客に對する大破格割引、景品付等各自思ひの珍趣向を凝して客足を誘つた。又同夜は大星河原で百數十發の煙火打揚及び柳町西宮恵比壽境内の仕掛花火、八間道路に舞臺を作り奇術、曲藝、万才手師の餘興等非常な人氣を呼び高氣も現れて近年に珍しい人出で十萬を突破し賣行も前年に比し三割増であつた。

菅平の初雪 菅平及び新鹿澤スキー場は十一月四日には處女雪がチラホラ舞ひ十一日朝雪が見舞ひ十二日朝は菅平ホテル附近十種、猫岳頂上二十種の積雪を見てスキー可能となり、待ち焦れたスキーヤーは狂氣亂舞して處女雪に初滑を行つた。前年に比すると初雪は十一日遅れたがスキー可能は五十四日早い。次で廿五日にも降雪ありスキー可能であつた。

小海線愈々全通 信越線小諸驛と中央線小淵澤驛を結ぶ小海線は愈々全通し十一月十二日汽車運轉時刻發表、廿九日には小海村に於て盛大なる開通式が舉行された。運轉回数は小諸小淵澤間直通は蒸氣列車で客車二往復、混合一往復、小淵澤小海間は蒸氣列車で四往復、小諸小海間はガソリンカーで下り十四本上り十三本其他小諸中込間一往復と季節列車一往復が運轉される事となつた。尙貨物列車の直通は五往復である。

小海線全通が上田市に齎す影響は上諏訪へ篠之井經由で廿五料だつたのが三料五短縮され甲府行は百九十六料が六十三料三短縮される事となつた。

上信バス回数及運賃 上田と群馬縣澁川を結ぶ上信省營バスは既報の如く十二月十一日から營業開始するが料金は一料三錢の割合で眞田澁川間は七十五料二圓廿五錢、分岐線大津草津間は十一料廿三錢と決定した。運轉回数は眞田澁川間直通が夏季六往復、冬季五往復で其他區間運轉(連絡あり)は次の如くでバスは廿六人乗三台、廿六人乗八台、トラクタ二台の計十三台で、配置は澁川七、眞田四、草津二台である。尙同線は上越線水上附近と信越線の菅平及び妙高山麓スキー場を結ぶ最短距離である。

區間往復回数

Table with columns for route (眞田、上澁澤, 上澁澤、大津, 大津、長野原, 長野原、川原湯温泉, 川原湯温泉、長野原, 長野原、澁川間, 澁川間、眞田) and rows for winter (冬) and summer (夏) return counts.

上田橋松尾町十間道路新設 本縣十一月年度豫算案審議會は十一月二十日開會されたが豫算案中地方開發道路改良費廿二萬九千圓中には兼ねて上田市申請の上田橋より南天神町裏を直行祝町に出で祝町通りを舊松尾町交番に至る延長六百九十米七八總工費十七萬四千五百圓、内縣費補助五割見込の縣道(幅員南天神町裏十五米、祝町通十八米)新設工事が採擇上提されたが本道路は近く建設の鐘紡工場と相俟つて至急開道の必要があるので三ヶ年繼續工事として明年度上田橋側から着手の見込である。然して鐵道踏切は五米掘上げてトンネルとするものであると云ふ。

上田驛列車時間改正 十二月一日より上田驛發汽車時刻が改正された。改正の重なるものは高原列車が定期となつた事上田始發が増加した事等である。同時に之に連絡する電車、自動車も一齊に時間が改正された。本紙十一面に改正に依る上田起點汽車電車自動車綜合時間表を掲げて置いた。

鐘紡工場計畫擴張 鐘紡上田工場敷地

七万坪の地均工事は三月着工以來七ヶ月六万六百人を使用して此程完成し十一月十四日竣工検査を行つたが之が建築工事は來春三月着工の豫定で冬期間は材料運搬其他の準備に費すと云ふ。然してその規模は絹人絹織物及メリヤス工場の外にガス線及人造織維紡績二萬圓の工場を増設する事になつた旨鐘紡本社永井技師より十九日市役所に通知があつた。従つて地均工事は残り三万坪にも行ひ千曲川揚水ポンプ一個も二個に増設し建築費百五十萬圓も三百万圓に増加すると云ふ。尙千曲川揚水工事は一萬圓の豫算を以つて平野組が請負ひ近く着工、又鐵道引込線工事も三萬七千圓を以つて上田市請負の下に着工二月頃迄に竣工の豫定である。

準備に沸立つ菅平 菅平スキー場はスキーシーズン控へ萬全を期して各方面の準備に努めてゐるが既に宿泊申込が殺到し既に五百餘名に及んでゐる。本年は澁川眞田間の省營バスが十二月十一日から開通するので一層來場者多數を豫想され鐵道省山の家の内部の改造に努め縣立青年講習所は青年團其他特殊な人々に宿泊所として開放し、旅館正木館の新築等で收容力を増し、全收容力は三千五百名は可能である。又避難小屋も猫岳中腹に開口六尺奥行九尺の石室が近く完成する外「菅平冬期避難防救期成委員會」が組織され救助器具藥品一切揃つた救急義三組を整へイザと云ふ場合消防組が之を携へ出て動す事になり、一組で五人救助出来る用意が出来た。

又菅平スキークラブでは從來危險コースとされてゐた四阿山頂から尾根を傳はり小串嶺山に出で万座温泉に至る新コースを計畫し、實地踏査を行ひ指導標を建設すべく準備中である。

尙菅平スキークラブは創立十周年を迎へこの冬を菅平ファンへの感謝と記念シーズンとし次の様な催物を連續的に開催する事になり準備に着手した。

△第八回神宮大會第十四回全日本選手權中部豫選大會(一月十一、二日) △國際アマチュアスキー大會(二月一日)

△雪のカーニバル祭(二月二日) 東洋各地本邦在留外人スキーヤーに依る我國スキー場最初の催し △文壇スキー第四回大會、東都及各地文壇歌壇の名流大家銀幕のスター参加 △雪の寫眞講習會と競映會(二月十五、六日) 撮影指導山口勝、柴崎高陽兩氏、モデル映畫スター参加 △壽喜伊山神大祭(三月八、九、十日) 記念碑除幕式、スキー場發見者坂井知巳氏追悼會、功勞者表彰式、記念祝賀會、奉祝假裝行列等

上田から菅平へ行く料金は上田眞田間電車が往復六十錢、眞田菅平間省營バス往復三十錢、菅平口菅平間馬橋上り卅錢、下り廿五錢である。

スキー列車運轉 名鐵局ではスキーシーズンを迎へ十二月末から明春二月にかけてスキー列車を増發する事となつたが其の内上田關係は左の通りである。

△上野發後十時四十五分直江津着前八時八分及直江津發後五時十五分上野着前四時五十五分の不定期を十二月廿一日より一月五日迄定期運轉、一月十一日より二月廿二日迄週末列車とする。

△大阪發一月一日後四時四十分關山着二日前五時五十分並に大阪發一日後八時八分關山着二日前九時四十分列車中三輛は臨時列車として上田迄延長上田着前五時四十八分

△大阪發後六時十分直江津着前八時八分を十二月廿八日より一月一日迄運轉以後二月二十日迄週末列車とする。

△名古屋發後八時八分長野着前六時半を十二月廿八日から一月四日迄定期運轉以後同廿九日迄は週末列車とする。

(香山記)

母校ニュース

針塚校長表彰せらる 十一月七日八日 兩日熊谷市公會堂に於て開催された埼玉縣教育會主催第卅一回關東聯合教育會大會第二日目の席上に於て教育功勞者として本校針塚校長が表彰された。

軍軍普及映畫會 母校では十一月十三日午後七時より講堂に於て谷配屬將校の御骨折に依り宇都宮十四師團國防映畫講演會より借用せる映畫の映寫會を開催した。

寫眞の内容は現代新兵器、防空一般心得、羅進三十年(日露戰役後我國が國際的に進展せる狀況を示したるもの)等で非常時日本に於ける國防意識を新にするに益する處が多かつた。來觀者は母校關係在郷軍人常入分會等で六百名に達した。

植民講話 三年生の學科課程の一つとなつてある植民講話は本年は十一月十四日、十五日の三日間に亘り毎日午後一時より四時迄(最終日は三時終了)講堂に於て全國蠶種業組合聯合會長男爵稻田昌植氏に依つて行はれた。

蠶絲學會に窪田助教發表 去る十一月十六日東京蠶絲會館に於て開催された昭和十年度秋季蠶絲學會學術講演會に製絲科からは窪田助教出席され、『生絲の物理的性質の二、三に就て』と題し研究發表を行はれた。

特別講義 十一月廿一日午後一時より午後四時迄三時間に亘り講堂に於て東鴨學園長文學博士遠藤隆吉氏に依つて『日本の同化力』と題し特別講義が行はれ全校生徒は勿論職員も多數聽講したが我國體の万国に卓越して比類なき點を一層明確に知り我が國體に對する敬愛の念を一段と深うせしめたると共に我國體觀念の明徴の重要性を深く感ぜしめたる點に於て學生の訓育上得る處が多かつた。

紡織科職員對高女職員庭球戰 一回目は本校に迎へて辛勝、二回目は遠征して

惜敗と云ふレコードを保有する我が紡織科職員組は二回戰の恥を雪がんともの再三挑戰したるも先方の都合悪く延びに延びて冬の早い信州には最早庭球シーズンも去らんとする十一月廿一日、上田高女コートに於て漸く相見える事を得た。

晩秋の日射しはブレイヤー以外には寒く日向ぼつこをせしむる見物すると云ふ状態であつた。兩者共五組宛出場、最初一回戰を行ひ時間があれば勝者同志の優勝戰を行ふ約束の下に試合開始、高女生徒多數應援ありシューティングを演じ一回戰は三對二で我が軍辛勝す。最早日は西山に後せんとし優勝戰は中止せんとの説多かりしも始めの約束通り試合を續行せるに今度は我軍俄然不調となり頼みに思ふ小林、藤田組はあつさり破れ、清水、中澤組奮戦之れ努めたるも決勝戰で惜しくも破れ相手に名を成さしむるの已む無きに至つた。今更一回戰までやめて置けばよかつたと悔いても追付かない。試合終了後同校の一室に於て茶話會を催した。

そして暗くなつた道を諦め切れぬ心を抱き負ける試合では無かつたものをうぬぼれ乍ら歸つた事である。

一回戰 竹内、坪内 3-0 野口、深美、兒玉 1-3 小林、藤田、竹中、福堂 1-3 鷹野、片岡、荒井、小宮山 3-0 香山、草野、武井、宮本 1-3 清水、中澤、二回戰 竹内、坪内 3-1 小林、藤田、荒井、小宮山 3-0 鷹野、片岡、三回戰 竹内、坪内 0-3 清水、中澤、決勝戰 荒井、小宮山 3-1 清水、中澤

三宅、藤田兩氏の榮轉 母校人絹研究室に勤務せられし三宅玉留(紡四)藤田四郎(蠶廿二)の兩氏は今回前橋市岩神町町人人造織維株式會社に入社せらるゝ事に決定し三宅氏は十一月十五日、藤田氏は十一月廿四日何れも午前八時四十分上田發にて赴任せられた。兩氏の將來に益々

幸多からん事を祈る。 鑑好作氏の入營 昨年卒業以來母校養蠶科生理學教室に勤務せられし副手鑑好作氏(蠶廿二)は國家の干城として金澤重兵大隊に入營せられた。

新任三氏 以前養蠶科に勤務せられし金澤勇氏(蠶十七)は再び同科に副手として勤務せられる事となり十一月三十日發令された。

又紡織科に副手として高橋眞澄(紡七)細井政吉(紡十四)の兩氏が十一月三十日附を以て勤務せられる事となつた。高橋氏は人絹工場に細井氏は機械工場に勤務せられる筈である。

本校生徒の軍事教練に對する査閲は十一月廿八日午前八時半より奥少將に依つて行はれた。最初一年、十時から二年、一時から三年と云ふ順序に行ひ教練、試問、小銃、機關銃、煙幕使用して戰闘を行つた。次いで全員の分列式として三時半終了した。學校長以下職員の大半は始めより最後迄見學した。講評は谷中佐の熱誠こめたる仕込丈あつて頗る上々特に三年は良好との事であつた。

談話會例會 廿五周年祝典の爲め暫く休止してゐた談話會はそれも無事に終了し後片附も一段が落つたので十一月八日より再開したが例に依り第十一教室に於て毎金曜午後四時からである。談話者、題目及月日は左の如くである。

十一月八日(養蠶科受持日) 一、埼玉縣下發生の桑の新奇病に就て 倉澤 恒夫 二、蠶卵の醗酵變化に就て 山口 定次郎 十一月十五日(製絲紡織受持日) 一、絹絲の性質の二、三に就て 窪田 潤 十一月廿九日(理化學受持日) 一、蠶絲學界の語(養蠶關係) 町田 博 一、全 (製絲關係) 窪田 潤 一、就職戰線 阿形 先生 (香山、鷹野、平尾、細川記)

養蠶科三年卒業製作題目 成分不足桑葉に於ける炭水化合物添成に依る蠶質並に繭質に及ぼす影響に就て (井上教授) 坂本勝三 川中真次 桑葉成分の如何が蠶質及繭質に及ぼす影響(須田助教) 田中真次 長久保新町を中心とする中仙道舊驛程の變遷史 (早川教授) 渡邊善次 上小地方に於ける蠶種業の變遷並に將來を論ず (遠藤教授) 香山 龍 桑樹病原真菌の培養に就いて (遠藤教授) 吉田信臣 摘桑時刻を異にする桑葉の養蠶致死速度に就いて (遠藤教授) 山内 次 桐枯病、擬似桐枯病、芽枯病、癌腫病各胞子の各種殺菌劑に對する抵抗力試驗 (遠藤教授) 奥村忠治 萎縮病桑葉中の又体に就いて (遠藤教授) 清水 傳 桑葉細菌數と蠶兒消化管内細菌數との關係に就いて (佐藤利教授) 小野 忠 絶食障害と軟化病發生との關係 (佐藤利教授) 井口澄男 膿病の食下傳染性に就いて (佐藤利教授) 菱田政二 膿病の食下傳染性に就いて (佐藤利教授) 横山良毅 蠶兒胃液の殺菌力に就いて (佐藤利教授) 北原 至 多温と軟化病發生との關係 (佐藤利教授) 關 照 蠶卵生種の呼吸障礙に依る漿液膜の變化並に化性的變化に就いて (佐藤春教授) 宮城時久 (蒲生教授) 高橋 悟 蠶の眠中時間と湿度の關係 (蒲生教授) 鈴木 中 湿度の激變が蠶の體温並に脈膊數に及ぼす影響と湿度との關係に就いて (蒲生教授) 關 博夫 温度の激變が蠶の體温並に脈膊數に及ぼす影響と湿度との關係に就いて (蒲生教授) 竹内好武 一家蠶の Anuotopism に關する調査 (倉澤教授) 出野正雄 天蠶及び柞蠶の飼育並に調査 (倉澤教授) 近藤二郎 一、「くはえだしやく」の成蟲に就いて (倉澤教授) 西川 晋 現今普及せる十一種交雜種の即時人工孵化に於ける適當なる浸漬時間に就いて (山口助教) 宮坂謙一 丸川貞夫 或種類の數日間互に採種せし蠶卵を總括して人工孵化せし成績 (山口助教) 宮坂謙一 山村泰三 蠶卵の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 (平尾 記)

製絲科三年卒業製作題目 蠶絲の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 丸川貞夫 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 (平尾 記) 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 丸川貞夫 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 (平尾 記)

製絲科三年卒業製作題目 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 丸川貞夫 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 (平尾 記)

製絲科三年卒業製作題目 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 丸川貞夫 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 (平尾 記)

製絲科三年卒業製作題目 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 丸川貞夫 蠶質の呼吸障害に就いて (山口助教) 宮坂謙一 (平尾 記)

### 紡織科三年卒業製作題目

- 一、綿長及太さを異にする粗絲の拔げざるに至る撚数を誘導する (香山助教) 淺野佐門
- 一、異なる湿度に於ける本綿織維の強伸度の研究 (岡教授) 天野彰
- 一、綿長を異にするステープルファイバーの製綿歩留及精紡維の強力試験 (野口助教) 菅尾源治 上田正三
- 一、デニールを異にする生絲撚絲の強力伸度に関する研究 (目崎助教) 川久保元
- 一、音叉の振動に依る直流變壓器の設計製作 (小林講師) 香掛祥平
- 一、ステープルファイバーと同紡維の強力に就て (野口助教) 小林講師 高木信雄
- 一、組織を異にする絹織物の縮強伸力に関する研究 (香山助教) 土屋勉
- 一、經絲の糊付に関する研究 (目崎助教) 中川正
- 一、生絲絹紡維同織物の染色堅牢度試験 (清水教授) 藤松利八 小鮎啓助
- 一、絹紡工程に於けるハイドラフト (石倉講師) 門田勇 (香山記)

### 蠶絲學雜誌八卷三號原稿募集

記念論文集は先づ大過なく發行するを得ましたが今回は續いて第八卷三號を明三月頃出したいと思ひます。此の記念論文集へは是非何か書く積りだつたが時節柄多忙の時に合はなかつたといふ方も相當多數の事と存じます。就ては夫等の方々には今回は非御投稿願ひ度いと思ひます。現在色々の御都合で雜誌を購讀されてゐない方も御遠慮なく御出し下さい。

- 一、雜誌發行豫定 三月十日頃
- 一、原稿締切 一月三十一日

蠶絲學雜誌編輯係 (山口記)

### 蠶學談話會開催

近いに吾々の蠶學談話會を開きたいと思ひます。例により研究發表、或は討議すべき論題等御氣付きの方は参考の爲め豫め御通知下されば幸甚です。期日は一月十二日にしたいと思つてゐます。

(山口記)

### 校友會ニュース

**全信州卓球大會** 本校卓球部主催第二回全信州卓球大會は十一月十日午前九時より本校生徒控室に於て開催された。出場者五十六名、清水會長の開會の挨拶並試合上の注意があつて直ちに競技に入る。長野の高嶺、交友兩クラブの宮澤、水内藤本の諸將、佐久の西澤氏、岩村田の吉池氏等縣下卓球界の猛者は全部出場せられ大接戦の後本校先輩西澤吉池兩氏の同志討となり遂に西澤氏の優勝する處となつた。本校よりは久保田、岡庭、古田、羽田、中村、四方、會田、佐々木の諸君出場善戦して破れた。因に當日の入賞者は次の如し。

- 一等 西澤(岩村田)
  - 二等 吉池(野澤)
  - 三等 宮澤(高嶺) 吉池(依田)
  - 四等 藤本(高嶺) 長谷川(佐久)
  - 五等 久保田(本校) 古田(本校)
  - 吉田(小鮎) 山崎(長試)
  - 佐藤(信電) 佐々木(本校)
  - 岡庭(本校) 會田(本校)
- 本大會に於て優勝戦が本校先輩のみに依つて行はれた事は本校先輩並に卓球部が全信州卓球界の覇權を完全に握つてゐる事を雄辯に物語つてゐる。
- 校内秋季辯論大會** 辯論部では十一月十一日午後四時より本校講堂に於て校内秋季辯論大會を開催した。辯士及演題は左の如くである。
- 一、開會の辭 蠶三 久保田不二夫
  - 一、挨拶 金子 教授
  - 一、昭和維新の黎明期に立ちて 絲一 太田 速男
  - 一、自省の精神 蠶二 加藤 沼二
  - 一、眞理を求めて 紡二 岩崎 正典
  - 一、新しき天地 絲一 宮田 修
  - 一、天然の美と力 蠶二 望月 藤夫
  - 一、蠶絲業よ何處へ行く 絲三 星野 智
  - 一、眞の幸福 絲一 内海 弘
  - 一、閉會の辭 紡三 土屋 勉

聴衆約一〇〇名、五時半終了後批評會を開き、七時散會した。

**弓道部昇段發表** 弓道部では今回始めの試みとして左の如く昇段を發表した。

- 右者武徳會二段に進む 紡三 小鮎 啓助
- 蠶三 横山 良毅
- 紡二 川久保 元
- 馬場 順一
- 追 繁
- 都筑 正一

右者武徳會初段に進む

**柔道クラスマッチ** 十一月十一日より三日間に亘り放課後を利用して本校道場に於て校内柔道クラスマッチを行ふ。参加チーム九、一チーム五名、紡織三年生權したので結局八チームで覇權を争ふ事になつた。若人の熱と意氣とのカケルは晩秋の道場を時ならぬ戦場の埒場と化した。リーグ戦の結果技よりも熱が物を言つて製線一年が優勝となり、二等が蠶二、三等が紡一であつた。左に優勝戦の戦績を上げる。

大將	望月	宮田	日幡	内間	野口	大將	望月	宮田	日幡	内間	野口
先鋒	望月	宮田	日幡	内間	野口	先鋒	望月	宮田	日幡	内間	野口
大將	望月	宮田	日幡	内間	野口	大將	望月	宮田	日幡	内間	野口
先鋒	望月	宮田	日幡	内間	野口	先鋒	望月	宮田	日幡	内間	野口

た。出場は選手を除き各級五名宛とし九組に職員二組参加し合計十一組に達し選手は加はらなくとも各級選り抜きの剣士故仲々侮り難き陣前を見せたが中には現れ珍試合も少くなかつた。斯くて白熱戦の結果蠶二が優勝した。出場者及戦績は左の如くである。

(蠶三) 關、岡庭、川中、北原、中村、(蠶二) 兒玉、丸山、佐藤、有間、瀧澤、(蠶一) 中西、都筑、小口、佐々木、松永、(絲三) 宮坂、宮原、宮崎、鈴木、渡邊、(絲二) 川村、土屋、小泉、多川、赤尾、(絲一) 吉瀬、下平、金丸、小口、鷹野、(紡三) 小鮎、香掛、上田、藤松、天野、(紡二) 下世古、小林、迫、諸岡、矢崎、(紡一) 小鮎、齋藤、高橋、植田、小泉、(職員一) 鷹野、小鮎、齋藤、植田、口、批杷木、(職員二) 佐藤、池内、六川、藤田、西川、(齋藤) (草野)

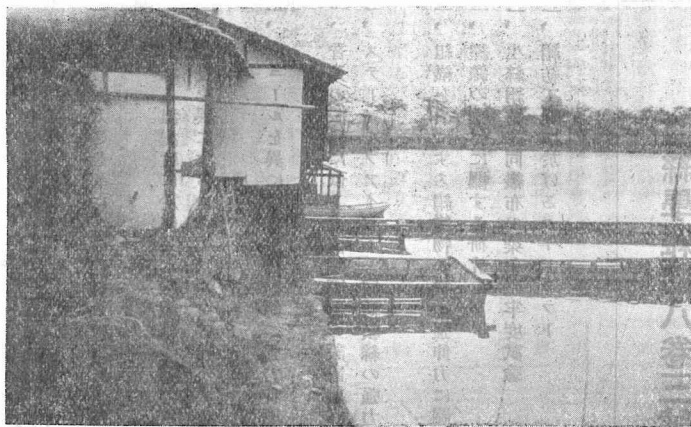
蠶三	蠶二	蠶一	紡三	紡二	紡一	職三	職二	職一
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○

(香山、鷹野、平尾、細川記)

蠶三セミナリとその効果

学校教育に於て教壇よりの教授及び實習實驗の効果は云ふまでもなく第一義的のものであるが、科學は教へられるだけでは其の人の自動的なハタキに依つて受ける人の自動的なハタキに依つてその人のモノとなる云ふ見地から、我等養蠶科では三年生が主體となつて、今年四月からセミナリを組織して、職員間に於ける談話會(金曜日)と互して進む事になつた。土曜日の課外一時間を之に當て三人位宛とし既に第九回を経た。勿論指導者として教授をはじめ時間の許す限り助手まで出席して指導、質疑應答に當つて居る。

方法は殆ど全部蠶絲業關係及び生物學關係の雜誌の論文紹介と同時に之れに就き研究討議すると云ふのである。長きも短きも宛に角十五分以内にとりまとめる事にしてある。之から生まれて来る効果は紹介者との聞き者の新知識の吸収は云常田池畔(紡織科野口新太郎氏撮影)



ふまでもなく、學生にとつては論文とは如何なる形式を持つものなりや、又如何に紹介すれば自分が仲介者として之を第三者に傳へ得るやそして之が爲めには相當廣く之等に關する常識を得ねばならぬこと、又辯論の價値等自らに教へられると思ふ。更に又時事問題經濟問題等は秩序あるノートでは其の機を逸しやしないものであるが之に依つて學生自身、之を常識として會得するといふ點など無理がなくともよいと思ふ。是等の事は殊更に茲に記すまでもないと云はれる方もあらうが、實際に當つて見ると指導者と學生とは云ふまでもなく、指導者相互の統一が無ければうまく行くものではなく之等は必ず學生にも反映するものであると信ずる。本年は、實習、記念式、試験等と續いて行はれた爲めに出来る丈けはやつたが九回やれただけである。今後は更に大いに發展せしめ、永續せしめ意義あるものならしめたいと念願してゐる。因みに現在までにセミナリで紹介された論文は次の通りであつた。

- 一、蠶卵の催青温度及湿度が孵化率に及ぼす影響(道家信道) 出野 正雄
一、家蠶の卵巢、体液並に卵管の水素イオン濃度に就て(永井豊) 奥村 忠治
一、蠶類の人工孵化に就て(足立美佐男) 近藤 二郎
一、蠶卵の呼吸障害に仍る膜液變化並に化性の變化(卒業成作) 宮城 時久
一、クロール石灰による脱落處理卵の發生歩合に就て 中村壽一郎
一、家蠶壯蠶期の發育階梯榮養障害が蠶質並に繭質に及ぼす影響(鈴木親抵) 井口 澄男
一、蠶兒の飼食と停食に就て(町田次郎) 久保田不二夫
一、蠶兒の食糸に就ての觀察 竹内 好武

- 一、蠶兒生殖集に及ぼすX線の影響 照
一、浸酸人工不越冬卵種に於る白ハゼ卵に關する研究(梅谷與七郎) 母袋忠右衛門
一、高度晒粉に仍る微粒子原蟲胞子汚濁に關する試験(宮崎重美) 川中 貞治
一、蠶蛆の成育に就て(町田次郎) 香山 謙
一、超音波による家蠶寄生蠶蛆の驅除法(八木誠政) 關 博夫
一、桑樹癌止病に關する研究(長野縣蠶業試驗場) 北原 至
一、桑樹胴枯病豫防法に關する事項(杉本清) 菱田 政二
一、滿洲梓蠶の微粒子病並にその防除法に關する研究(滿鐵農事試驗場) 羽藤 泉
一、昆蟲と日週期との關係(ピービウツロフ) 西川 晋
一、ヒメマルカツラアブシムシの嗅覺反應に就て 横澤 正雄
一、適量輸入に關する一考察(渡邊千尙) 鈴木 中
一、稻の二化螟蟲に對する微粒子の傳染力及び血淋細胞の作用に就て(大島格) 西澤 政人
一、甘藷の水耕法に就て(春日井新一郎) 小野 忠
一、植物グアイラス病の概念(逸見武雄) 坂本 勝三
一、稻熱病とその防除法 山内 一次
一、我等の新しき血液種屬鑑別法(三田定則) 清水 傳
一、貿易上より見たる絹織物と人絹織物(一〇、一一、山口記) 悟

叙任辭令

- 母校之部
十一月十三日 紡織科副手 三宅 玉留
十一月二十日 願ニ依リ副手ヲ免ス
十一月三十日 願ニ依リ副手ヲ免ス
十一月三十日 願ニ依リ副手ヲ免ス
十一月三十日 願ニ依リ副手ヲ免ス

- 副手ヲ命ス養蠶科勤務ヲ命ス 高橋 眞澄
臨時副手ヲ命ス紡織科勤務ヲ命ス 細井 政吉
職員之部 氣象台技師 築地 宣雄
一級停下賜 奧田 達雄
本會會員之部 昭和十年十一月二日 正六位 奧田 達雄
敍勳六等瑞寶章 昭和十年十一月八日 坂田 榮雄
地方農林技師ニ補ス 東京府農林技師ニ補ス 九級停下賜 昭和十年十一月十二日 陸軍歩兵少尉正八位 新庄哲二郎

- 地方農林技師ニ任ス 高等官七等ヲ以テ待遇セラル 栃木縣農林技師ニ補ス 九級停下賜 昭和十年十一月二十五日 地方農林技師正六位 網村 貢
本職ヲ免ス、任地方技師 八級停下賜 宮城縣勤務ヲ命ス 公立實業學校教諭 近藤 正巳
八級停當分千三百八十圓下賜 昭和十年十一月三十日 地方農林技師ニ任ス 萬石安太郎
高等官七等ヲ以テ待遇セラル 秋田縣農林技師ニ補ス (依田、久保記)

第二回七久里會開催

劃期的大祝典母校開校廿五周年記念の年昭和十年は局部的な少數の稻作等の不作や風水の天災はあつたものの、事蠶絲業に關する限りは全く恵まれた年柄であつたらう。神ならぬ身のどんな偉い學者でも、經濟學の泰斗でも景氣の豫斷許りは全く不可能事に近い。假にやつたとしてもそれを的にした方が間違である。生絲相場にしてからが恐らく千圓と言ふは愚か、七、八百圓もどうか位に悲觀してゐた者も少くはなかつた筈だ。所がこうした學者や通の豫測を裏切つて、而も我が上田蠶專の廿五周年記念の十月二十一日には一、〇〇〇圓、二十四日には一、〇五五圓と跳ね上がった。これを蠶專景氣と言はずして何ぞである。又上田市附近ではあの當時の好晴を稱して蠶專日和とか、天の恵、人の和、恵まれた記念祭ではあつた。こうした母校に幸した昭和十年も二句を出でずして逝かんとしてゐる。お、昭和十年よ!

と轉た惜別的情淺からざるものがある。こんな良い年で又來年もある様に七苦難に因んだ七久里を左記によつて開催し度いと思ひます。少くとも昭和十一年に於ても良い年と迄は行かなくとも天災や凶作に悩まされぬ様七難九厄から離るゝ様にとそんな意味も多分に含めて蠶、絲、紡と上田近在々住者及歸郷同窓生の七久里會を親睦談笑久瀧議論連絡と色々の意味で聞き度いと存じます。特に第一回會合の際にもそんな話があつた筈ですが割合に絲紡の同窓の各位の少なかつた事は遺憾とした事の一でした。今度第二回は趣旨も解つてゐる事であり、その會同の内容も既に御承知の譯、何分多數の御出席を切に願ふ次第であります。

- 一、日時 昭和十一年一月二日午後四時より
二、場所 別所温泉花屋ホテル
三、會費 一圓五十錢位
四、宿泊 當夜宿泊希望者に對しては一泊朝食付にて一圓五十錢
尙年賀の序にでも在田左記各クラス代表者宛御一報下されば大變好都合です (一〇、一一、五、竹内記)

本會記事

本會日誌

十一月八日 レコード調製の件に關し西ヶ原同窓會へ照會す

十一月十二日 代議員會の旅費として打切計算額各支會長へ送る

十一月十四日 一、理事會記念事業實施後の整理に就て協議す

二、校長、課科長並に新築業者者に租税を呈し會館新築の内祝を行ふ

十一月十五日 一、レコードの件に關し西ヶ原同窓會より内容回答せらる

二、高山裕氏の告別式執行せらる、本會及北信千曲會を代表し宮城博氏列席す

十一月十七日 東海千曲會總會開催せらる 倉澤理事出席す

十一月二十二日 記念事業に従事せられし母校近在の會員を別所温泉に招待し慰勞晚餐會を開催す

十一月二十三日 故原亮敏、故沼田周造兩氏に對する有志慰靈金贈呈す

十一月二十九日 故人の遺志にあり本會へ寄附金せられたる高山裕氏御令聞に對し體狀發送す (久保記)

支會長副支會長交迭 朝鮮千曲會會長左記の通り交迭せり

新任 矢澤茂登一氏 退職 高橋 善吾氏

東海千曲會は十一月十七日の總會に於て役員改選左の如く決定せり

支會長 野澤 泰治氏(重任) 副支會長 高尾 歳次氏(新任)

熊本千曲會は十一月廿四日の總會に於て役員改選左の如く決定せり

支會長 父母 仙藏氏(重任) 副支會長 若林新一郎氏(新任)

(久保記)

千曲會館落成式

十一月十四日午後六時より千曲會館樓上に於て落成式を擧行した。出席者は校長、各科課長、請負者柳澤章三郎氏以下四人、理事會及會館建設委員等約廿五名にて衛生理事長の挨拶にて酒宴に移り飯島理事提案柳澤氏發聲にて會館万歳を三唱して七時散會した。(香山記)

本會事務所移轉

從來本會事務は各科に於て分擔夫々執務致して居りましたが十二月二日より新築會館へ事務所を移轉しました。爾今母校御來訪の會員各位には必ず第一に會館へ御立寄り願ひます。(久保記)

福島氏(絲三)夫人御乳人に決定

宮内省では兼ねて待醫寮に於て詮衡中の新宮様に奉仕すべき乳人を決定十一月廿六日發表したが本縣知事推薦の北安養郡大町福島綱治郎氏(本校絲三二回出身現農林省勤務)夫人治氏(三)が正乳人として召される事となつた。右に對し福島綱治郎氏より林教授宛左の書信があつた

拜啓向寒之御愈々御清榮の段大賀候今回治儀皇后宮職乳人を拜命候に付早速御祝被下御厚情悉く奉深謝候

十一月廿八日出發同夜何候仕り廿九日より御奉任申上居候間御安心被下度候、右不取敢御報告芳々御禮申上度如斯御座候 (鷹野記)

在田同窓會 在田同窓會は例年十二月下旬に上田公園當貴に於て忘年会を開催する事になつてゐたが本年は廿五周年記念事業に對する骨折の慰勞の意味も含めて稍々大掛りとし期日も早めて十一月廿二日午後六時より別所温泉栢屋別荘に於て開催した。

出席者は遠路長野よりの参加もあつて五十九名に達した。本校側の同窓生は大抵四時のサインと共に別所に馳せ参じ

支會通信

諏訪だより

諏訪の天地を開拓された先賢三氏を讃へて學校から失つた悲しみの内に其の御慰勞を兼ねた嚴肅な奉進會を終つて製絲街の最多忙時に暫く顔を合す機無いのを残念に思ひ以前の三日會を再興すべく相談出來、八月廿一日美遊喜に第一回の會合をなす。新會員鈴木正一郎君を加へ十二名で押を喰ひ乍ら近況を報じ新知識の交換に、或は同志の發展策に、母校財品の撰定等ドライブにはあるが極めて水入らずの和やかな一夜を語り明した。

岡谷も一躍市制が布かれる模様で絲都としてののみならず工業都市としての面目は着々整備せられ市職會、商檢定所、生絲檢査所、乾繭販賣所、其他機業工場の新増設に、道路の擴張に、而も來春は大日本蠶絲會總會が開催せんとする。

上諏訪、下諏訪又其の商工業觀光設備に躍進擴大が計畫されつゝあり、之等重要なる當地方開發に幾多同窓生の有力なる活動を見て吾等の同志先輩の益々一致協力を要する秋なるを痛感す。

折しも母校廿五周年の祝典も無事終了し此の喜びを支會に反映し、更に和協親睦

肅啓 向寒之候各位愈々御隆昌之段奉賀上候

陳者私儀過般來一身上の都合にて暫く官舎或は上田市を離れ在任致し居候所今同御蔭を以つて再び別荘に居住いたす事に相成候に就ては、從來の缺禮を御海容の上改めて御厚情賜はり度伏奉懇願候

先は不取敢以紙上御挨拶申上度如斯御座候 敬具

山口定次郎 勤先 上田縣絲專門學校 自宅 上田市新田黃金澤橋



を計るべく十一月二日午後七時諏訪町郷之湯に秋季例會を開く。定刻六時半今井副支會長の挨拶に兼ね代議員會の折原繁先生よりの謝辭を傳へ且つ代議員會の挨拶を述べられ、又麗原幹事外出席者より母校祝典の状況を報告す。次で協議に入り

一、會費徵收方法に關する件 一、例會に出席者を多からしむる件

を決定し更に石川幹事より會計報告ありて別室の懇親會に移る。自己紹介に各々得意の抱負熱辯を加へ痛飲益々意氣軒昂美威のシンクと伴奏に怪技美聲席に充ちて夜の更くるを知らず、在田の氣分に還りて秘話、傑作に一同いやが上にも迷期たり。やがて所望にて鈴木、田近の兩應援團長立てば之に合す拍手渾然一體となりて和す。續いて副支會長の音頭にて支會の萬歳の轟天地に漲りて意義ある會を閉づ。時に十時半湖上を渡る冷風に漸く我に還りて三々五々歸途につく。出席會員左の十九名。(敬稱を略す)

(客員) 龍川 會 田近 澤

(會員) 今井 衷 中川 澤

鹽原 克巳 石川 健丸 原田 種龜

高倉 督造 金野 盛保 手塚 政吾

村田 借宜 御子榮藏 土岐 茂次

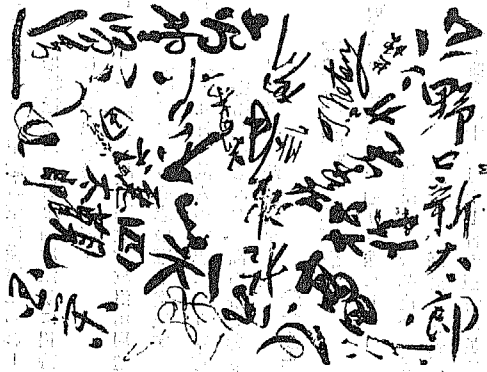
渡邊 康平 宮坂美壽雄 小澤 正一

福島 喜藏 後明 武雄 (金野記)

鈴木正一郎

北陸千曲會總會

九月廿四日午後一時より金澤市櫻島『望月』に於て北陸千曲會總會開催せられたる...



京都三士の會合

十一月廿九日附、千曲會本部宛に京都在住三氏より...

合法ギヤング團幹事 吉川孟文
沈黙久し、黙つておるからとて、いゝ氣になつてると...だね。

圍爐裡會の記

竹内善吾

待ちに待ち思ひに思つた母校廿五周年記念祭は、全く天の恵と言ふか、人の和と言ふか、好晴と上田全市を擧げての熱

狂的祝賀気分と學校當局の緻密周到の計畫によつてほんとうに上田始まつて以來と言ふ賑ひと歡喜に終始して無事終了したことは校長先生日頃の御人格の反映であり訓誨、教化の然らしめたものと全く今更の如くその高邁なる御人格に驚歎し且つその訓育の下に社會に出た事に無上の光榮を感ずるものである。恐らく上田へ来た程の者がそれは卒業生と言はず見物人と言はず來賓と言はず少くとも母校廿五周年記念祭當時來田した者で歡に満ち、歡喜に踊つた心からの上田市民の祝賀気分には涙ぐましい或一種の氣分を喫したるよし、又心から辭はされた事だろと思ふ。學校當局の全く自己を忘れこの準備、計畫が祝賀會完成の大きい力ではあつたらうが如斯く上田市民を學校當局を己れを忘却しての努力をなさせしめたものこれは一に校長先生の御人格の力である。元來人間は感情の動物である意地の動物である。己を信じてくれる者、肝膽相照らす者、心から敬慕する人の爲の如き場合命を賭して即ち獻身的努力が出るもののである。大事業をなし得るためには如何に智能優れ体力偉大なりと言へどもこれを助け、補ふ多くの人の助力が無くては不可能事である。而して欣然として事業をなさしめるものそれは偉大なる人格者の人格力でなければならぬ。斯くして如何に校長先生が翁然として多くの人々を事に就かしめ得たか、以つて其の御人格を窺ひ知られ様と今度の事際會して其感を深くしたものである。

Table with 4 columns: Name, Address, and other details. Includes names like 中村君, 佐村和夫, 竹内孝三, etc.

裡會員は合計二十六名で出席者十七名の七一%で恐らく全クラス中の白眉だろ... 祝賀の準備のため午後四時頃額を出したのであるが山口縣の佐村君の如きは午後一時に花屋に用かけてくれたぞうだ。

も聞かぬ。十年來の話、學生當時の思出、仕事の話、全くなんと昔ぶ情熱の光景であらうかその内齋者が怒り出すさわぎ『ワタシこんな會に出たの始めてだ』と、先生の恩義に感じ方が大きいとか、なんてそんなに早計はし度くはない。又そんな大外れた考え方をする者では毛頭無いが、然しクラスの一人として澤山のメートの來てくれたのは目頭の熱くなるやうな感激を覺えた。少くとも吾圍爐裡會員が熱があり、意氣に感ずるの氣概のある者達許りであると文は駄法ツテ置く次第である。





東海千曲會總會

本年度總會を東海の勝地蒲郡に開かむと同日工藤氏に御依頼申上げた處早速快諾の報に接し直に會員に飛ばす。

十一月十七日午前十一時集合の通知に早きは十時前到着と云ふ熱心振り。工藤氏の一方ならぬ御盡力は此處勝地の内の最勝地に御決定下されし會場仙遊亭に立ちより何れも満足の体、直に海上敷町の竹島辨天への棧橋を渡る者、御利益の程は聞き漏らしたが、物産館に第二世へか又は誰れかへの土産物を漁る者、遊園地を氣取つた足どりて散策する者、會場へ陣取つて久潤を誦する者等々。

丁度此頃不意に倉澤先生が御出下下さつたので一同の喜び此上なし。頃はよしと十一時半より直ぐ上の觀光ホテルに茶の會を開き一寸氣分を味ふ。設備萬端上々。貰つた譯ではないが御通過の折は是非立寄り下さいと郷土の爲めに棒をかついで置く。會場へ引き返し、午後一時過ぎ開會の聲もなく頗るスピーデーにスムーズ進行、倉澤先生の母校並に千曲會の近況は舊きも、新らしきも今更の如く懐しく拜聴御馳走を甘く食はせる爲めの策ではないが、此の間暫らく休む。

一風呂浴びて日當りよき硝子戸の中でキラ／＼輝く美しい海を眺め乍ら語は思出に趣味に天下の大勢にと及ぶ。準備や好しいよ／＼懇親會に移つたのが三時ストラット並んだ所で一寸失敬して空版をかゝへながら拾ひ上げて見る。楽しんで居られた會長、野澤氏が御都合により急に御出席が出来なくなつたのは如何にも淋しい。

元來當支會は初め静岡、愛知、岐阜、三重の所謂東海四縣の廣汎なる地域なりしと千曲會の發展は年と共に加はり自然分離獨立の隆盛を見るに至り一昨々々三重先づトツプを切り一昨年は静岡昨年は岐阜と各縣獨立し東海千曲會の老舗は愛知

縣のみとなつた。現會員六十餘名、然して本日御出席の諸君が二十六名殆んど半数に近い盛況だ。倉澤先生の御臨席は何んと云つても感謝の外はない。秀げた申上では失禮此上もないが此の前會ひした時(きて何年前か忘れた)がより頗る頭の境界不明瞭に残りの毛が少くなつて居る事と御肥りになつた事。少くなつたと云へばK氏も優なるのも御尤も一第一回は既に御卒業後二十二年孫のある方も出さうと云ふ御年輩だもの。

新らしい諸君で此會初めて御目にかゝる數も又多い。何れ劣らぬ諷刺たる好紳士あちこちからよい話がござりませう。羨ましき限りにて候。舊くて新らしく會員となられた立岩氏、筆者もかれこれ二十年お目にかゝらぬので一寸初めのうちは解りかねたが顔を見ればさだま／＼しきは忽ち一部分に二十年前を掴み出した。今は東洋紡で重きをなしてゐる人これも肥り組みの一人。

次は天野氏(舊姓柴田)可愛らしい御子息をつれ常に傍へ座らせ喚ばせたり繪本玩具で父性愛の最高を示して居らるゝのは如何にも美しい。一度家族連れ集りを開いてはとの提唱も何處から出た。至極結構獨身者聞くとくからず。自己紹介も一巡、中でも若氏のユーモアたつぷりT氏との友情濃かな所をも御聞かせ下さつたのは甲の上。聲の大なるはIMT君等の諸氏、世の中に瘦せの聲高と稱するもこは筆者には適するも以上の諸君決して然らず御安心を乞ふ。

昭和十年年度總會報告

一、時 日 十一月十七日午前十一時より一、會 場 寶飯郡蒲郡町仙遊亭

一、出席者 千曲會理事倉澤先生 工藤二三 稻石 佐一 鈴木 康之 芝 荒雄 立岩 笑保 中根 眞一 大久保秀治郎 山口 貞周 齋藤 倉 天野 未治(舊姓柴田) 今村 良郷 平野 秀男 岡本 榮一 松本 一二 向坂 朋二 坂田 武 小林忠十郎 杉浦 卓三 高田 正一 中島 正喜 塚本 優 青木 深 鈴木 重孝 高野 耐三 及部 蝶作

一、次第並に狀況 一、開 會 工藤二三君地元の故を以て挨拶をなす 二、座長選舉 稻石佐一君推薦により座長席に着く 三、會務報告 中根眞一君報告 四、役員改選 座長指名により左の如く決定

會長 野澤 泰治(重任) 副會長 高尾 歳次(新任) 代議員 芝 荒雄(重任) 大久保秀治郎(重任) 幹事 鈴木 康之(重任) 寺本 秀吉(新任)

一、千曲會近況 倉澤先生 (編者より) 同級會出席者の寄せ書は記事より數日遅れて到着せる爲め製版の暇無く洵に残念乍ら來月週しの已むを得ざるに至りました。悪しからず御了承を乞ふ。

熊本千曲會便り 南國の秋も暮れんとする十一月二十

四日九州熊本の泉都山鹿に千曲會總會を開いた。馳せ参する會員十二名菊池川の清流に望んだ鹿門前庭で温泉に浸り一夜の祝宴を張り氣煩を擧げて久し振りに心の洗濯をした。總會の議題及決議事項は母校千曲會及未出席會員の報告等々此處に記することにする。

熊本千曲會便り

無くしかも前三者と同様に母校との關係が深く母校の爲め盡されたる諸氏にして熊本縣在住者が數名あるを以つて此等の諸氏も熊本千曲會の賛助員として春秋の總會に御出席を願ひ共に上田を語り親交を温むることは我々として熱望する所にしてこれを提案せる所蒲場一致を以て賛成あり次會より實行することに決定を見

以上は山鹿に於ける總會の内容にして本總會を開くに當つては地元村長格として村田先輩の御配慮により萬端の御世話をお願い盛會裡に閉會せることを深く感謝するものである。

出席會員名(敬稱略、順序不同) 父母 仙藏 村田 勻 貞包 新 若林新一郎 三ヶ田良吉 太田慎一郎 長野 忠顯 深迫 明 平山 俊夫 小川 春男 森川 博 小林 重男 寄書は當日のものであつてこれによつても如何に盛會なりしが想像出来るであらう。

(一)の件については蒲場一致を以て肥後製絲社長母校職員奥井三郎先生を顧問に推戴することに決定した。(本件は以前よりの懸案にして本總會開會に先立ち熊本市内に於て幹事會開會本件を附議奥井先生を顧問に推戴する事を決定特に出席父母氏を煩はし山鹿の總會御出席を願ひたるに廿四日は丁度御都合悪しく御出席出来ざるも今後千曲會開會の場合は御來會下さる様御快諾を得た。

願 間 奥井 三郎 會長 父母 仙藏(再選) 副會長 若林新一郎(新設) 常任幹事 太田慎一郎(會長事務取扱) 全 長野 忠顯 幹 事 熊本市内在住會員全部 (三)の件については種々意見があつたが結局會費は會を運用するに就ての源泉であるから不景氣の折柄で御氣の毒ではあるが本年度分及未納の分も出して頂く事に決定、これについての御願ひは太田先輩の方から近い内に文書を以て御通知する筈になつて居る。

(四)の問題は母校千曲會賛助員、正會員、準會員に屬せざる全縣同窓會名簿等に

山鹿温泉の秋色は會員の氣焔萬丈、同窓の結び愈々堅し。こころの事あまり心配せんでまい、い、向々)



十一月二十五日附、熊本千曲會一同より千曲會本部各位宛にかぎにて左の便りがあつた。

訃報

御逝去通知

本會々員 高山裕氏(憲十三) 十一月十三日御逝去せらる。謹みて哀悼の意を表す。

御遺族 長野縣北佐久郡小沼村 嗣子 高山 隆 嚴父 高山 永三郎 令聞 高山 山より子

弔慰金募集

本會々員 故富岡泰氏(憲六) 本會々員 故高山裕氏(憲十三) 右記兩氏に對し弔慰金を募集致します。然して右弔慰金は富岡氏は二月末日、高山氏は二月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから夫れに間に合ふ様振替口座東京第四三三四一番へ夫々同氏弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。 昭和十年十二月十五日 千曲會

故原亮敏氏(憲二)

御遺族よりの禮狀

謹啓 日毎に寒き相加は候折柄貴會益々御隆昌之段奉賀上候、陳者本日亡父亮敏に對し多額の御香料賜り洵に難有いつも變らぬ御厚情の程家族一同感謝罷在候御皆々様の御指導御鞭撻に依り家業も父生前と變りなく營業仕り居り候間御安意被下度候、先は不取敢以書中御禮申上度如斯御座候 敬具 追伸甚だ失禮の至りに存じ候へ共御記載賜り候御芳名の皆様に宜敷御傳聲相煩はし度奉懇願候 昭和十年十一月二十八日 千曲會御中 嗣子 原 明 敏

故沼田周造氏(憲十三)

御遺族よりの禮狀

謹啓 逐日向寒の候愈々御多祥之段奉慶

賀上候、陳者今般亡父周造に對し各位様より御香料御送附賜り御芳志洵に難有正に拜受仕り候、早速佛前に御供へ致し候間御諒承相願度無かし故人も地下に感激致し居り候事と深く相信じ申候、何れ御芳名の皆様へも御禮狀差上げ可申候へ共不取敢以寸楮御禮券々拜受の御挨拶申上度如斯御座候 敬具 昭和十年十一月三十日 嗣子 沼田 宏 父 沼田 與三吉 千曲會御一同様

故高山裕氏(憲十三)

御遺族よりの御寄附

十一月十三日病魔のため遂に御逝去せられた故高山裕氏御遺族より左記の如き手紙に金十圓也を添へて本會へ御寄附爲された。折角の御厚志に付難有採納した。本紙上より謹みて感謝の意を表する次第である。 謹啓 亡父高山裕葬送の際には御懇切なる御慰問を賜り御厚志の程奉深謝候却説本人の遺志に依り甚だ些少には候へ共貴會へ金拾圓也寄附仕度別紙小爲替券二枚相添へ申し候間何卒御採納被成下度右々略儀書中を以つて御禮券々申入候 敬具 昭和十年十一月二十日 北佐久郡小沼村 高山より子 千曲會御中 (久保記)

弔慰金報告

故富岡 泰氏弔慰金第一回 金五圓也 千曲會 故高山 裕氏弔慰金第一回 金參圓也 千曲會 右金參圓也 (白倉記)

富岡泰君を憶ふ

齋藤 菊 雄

二、三年前から富岡君の不快である事は聴いてゐた。君が病氣静養の爲職を退いたとの報を受けた時には君の健康は必ず恢復し再び活動し得る時が来ると思つてゐた。然し其後の消息も絶へ氣懸りにもなつて居たので母校廿五周年記念の祝賀會に出席せられた宮崎高等農林學校の中島茂君に模様を尋ねた處つひ出發直前の富岡君の他界された事を聴いて來たと話されたので實に意外の感に打たれたと同時に君の爲に洵に痛惜に堪へなかつたわけである。



高山裕君を憶ふ

宮城 博

君は卒業後直ちに郷里の宮崎縣に就職し蠶業取締所へ勤務して退職する迄始終一貫郷土蠶絲業の爲に努力した。其の間宮崎縣下蠶絲業の中心地たる蠶業取締所都城支所長として敏腕を振ひ業者の信任極めて厚きものがあつた。當時僕は熊本に居り君は管内業者を引率し熊本縣の蠶種業視察に來られた事もあつた。此の頃から君は弓道に興味を感じ職務の傍ら之に精進し三段迄に昇進したとの事である。弓も上達するに伴れ順次弓引を引く事になり然も君は頑強な体格に任せ益々剛弓を扱ふ様になつたので之が健康に禍したとの事を聞いて居た。君は卒業以來全く自縣蠶絲業の啓發に努力せられ業界の信頼愈々厚く將來大いに爲さんとする時に當り今君を亡へる事は同縣蠶絲業の爲亦我々同窓の爲洵に痛恨事である。衷心より哀悼の意を表し君の冥福を祈らんとするのである。

す通り沈着果斷實に泰然たる代表的男性的人物であつた。君にして今日他界するとはどうしても信じ切れぬ様な感がある。君の學生當時を想起すると先づ君のニックネーム「コブデン」の由來である。多分一年の時と和田先生からマコーレーのロードクライブを英語の教科書として習つてゐた時と思ふが當時先生は學生に對し順番に二、三節宛讀と譯をやらせ其の後で先生が改めて譯してくる仕組になつてゐた。丁度富岡君が其順番になつた君の讀方も譯し方も仲々上出来であつたので和田先生も多大の讃辭を與へられた。處が其時の文章中に「コブデン」と云ふ人名があつたのであるが富岡君の讀方に於て其のアクセントが特に高く響き奇異に聞へた爲にニックネーム命名の達人橋本廣が早速之を捉へ以後富岡君の別名をコブデンとしてしまつた譯である。富岡君も之を自認し卒業後に於ても時々コブデンの名を以て手紙をよくこした事があ

る程我々仲間には通つてゐた。君は卒業後直ちに郷里の宮崎縣に就職し蠶業取締所へ勤務して退職する迄始終一貫郷土蠶絲業の爲に努力した。其の間宮崎縣下蠶絲業の中心地たる蠶業取締所都城支所長として敏腕を振ひ業者の信任極めて厚きものがあつた。當時僕は熊本に居り君は管内業者を引率し熊本縣の蠶種業視察に來られた事もあつた。此の頃から君は弓道に興味を感じ職務の傍ら之に精進し三段迄に昇進したとの事である。弓も上達するに伴れ順次弓引を引く事になり然も君は頑強な体格に任せ益々剛弓を扱ふ様になつたので之が健康に禍したとの事を聞いて居た。君は卒業以來全く自縣蠶絲業の啓發に努力せられ業界の信頼愈々厚く將來大いに爲さんとする時に當り今君を亡へる事は同縣蠶絲業の爲亦我々同窓の爲洵に痛恨事である。衷心より哀悼の意を表し君の冥福を祈らんとするのである。 十一月十五日の告別式に母校、北信支會及び同級生を代表して參列した折、奥様より御聞きした所によれば、高山君には十一月十日午前我々クラスで今度アルバムを作製しやうとした其寫眞を一家打揃つて非常に元氣で撮影したので其日の午後から何時もより呼吸が苦しいと申され早速醫者を迎へて診て貰はれた處、其時には別に心配の事はなかつたのに翌日の夕刻から急に悪變し呼吸困難に陥入れ遂に十三日午前五時に永眠されたのである。臨終まで意識が明瞭だったので幼き二人の御子供様の御成長も見ずに逝かれる事が非常に心残りであつたであらう。佛前に供へられてあつた十日に撮した形身の御寫眞を拜見し又新たな涙をそそつた。學生時代と何等變りなく病人らしい面影も認められないのどうして逝かれたのかと疑はざるを得なかつた。高山君は岩村田の農學校を卒へ大正十二年養蠶科第十三回に入學された。北佐久郡小沼村の名門高山家に生を受けた人丈に温和な人格者で、何んとなくユツタリとした貴公子型の風格の持主で、誰にも親しみ易い人だつた。學校を出て直ちに富山縣の小杉農業公民學校に赴任され眞面目に生徒の教養に従事された。多分土地や氣候に適さなかつた事と校務の爲めに無理をされたのが原因だつたらう。お若くして逝去され後に遺された奥様や御二人の御子供様には全く御氣毒である。六才と三才の幼き子供様に御會ひした時全く涙なしには見ることが出来なかつた。奥様の心中や如何許りか御同情に餘りある。又先日奥様より頂いた御手紙を拜見し涙なしには讀めなかつた。私は此文を草して高山裕君の御冥福を祈り御遺族の御幸福ならん事を希ふ次第である。 (十二月一日)



編輯室より

△前二増大號を出した本紙も本月から平靜に歸つた。處が本月は御寄稿はさして多かつた云ふ譯では無いが何や彼やと記事が嵩んで十乃至十二頁の豫定を越えて十四頁となつてしまつた。頁數が豫定より殖える事はそれ支骨が折れると知り乍ら何んと無く嬉しいものである。然し之の豫算超過を廣告か何かで補はなければならぬと考へる時轉々慨然たらざるを得ない。之の意味で年賀廣告の御申込の多からん事を祈つてゐる。

△芝氏より私信を以つて十一月號の本紙に對し『第一面の行事日程に於ける雨天順延は既に済んでゐるものには可怪しい。第五面記念式出席者の名古屋高商校長渡邊龍聖氏は既に國松豊氏に替つてゐる』と云ふ御注意を戴いた。洵に申譯無い次第で此處に謹んで訂正する。わざ／＼私信で下さつたものを紙上に發表する事は同氏の折角の御好意に悖る様であるが誤記は御訂正を願ひ同時に斯くの如き好意ある忠告を大いに戴き度いと思つて斯くの如くした譯である。十一月號は頁數の多かつた上にその大部分を編輯子が執筆しなければならなかつた爲め多忙を極め非常に杜撰であつた事を認めてゐる。芝氏の御指摘以外にも數多の誤謬を自ら發見した。若し文章配列等にも及んだら殆んど枚擧に暇が無いであらう。若し本號を記念として保存せらるゝ方々が多いとしたらそれこそ冷汗三斗の思ひである。今更乍ら期日を遅らせても正確を期すべきであつたと悔ひてゐる。此處に芝氏の御好意を感謝すると共に今後共御同情ある御忠告を賜はらん事を切に御願ひする次第である。

△本月號は全般的に考へれば御寄稿不足と云ふ譯ではないがそれが皆支會總會記事や弔慰文許りで巻頭へ掲げる様な記事が一つもなかつた。母校の先生方に願ひて廻つたが駄目、それで窮餘の一策として特別講義の抄録を載せて漸く体裁を整へた次第。平易な斯業の研究資料調査、漫文の如きもの、御寄稿を切に願つてやまない。

△お願ひ二つ、書き寄せの寸法は投稿規定の範圍内にして戴き度い。本月號の園遊會のは稍々大に失した。次に御寄稿は一行十八字詰に願ひ度い。一列二十字詰の原稿紙を使用される方が多いが之も十八字丈書いて戴き度い。

△本紙第十一面に上田關係汽車、電車、自動車綜合時間表を載せた。之は母校及附近の人々には非常なる便宜を與へる確信がある。又遠隔の人々にとつても年末、年始の休暇に御歸郷、御來校乃至附近の温泉地スキー場へ御來遊の便宜を考へれば決して無意味ならざるを信ずる。

△先日淺間山が大爆發をした。その規模は何年來と報せられ灰は遠く帝都に迄流れた。然るに距離的には安否問合の電報が來てもよい位の危險區域

にある上田は灰一つ降らず唯偉大なる大入道を見物させて戴いた丈である。今回に限らず何時の噴火でもこうである。風のせいかはた又何んのせい

△廿五周年記念と云ふ母校の歴史に一大エポックを劃する最も意義ある昭和十年も間も無く去らんとしてゐる。今年はやつた、多難であつた、來年はよい年であれと願ふは筆者許りか？ (香山記)

投稿規定

- 一、内容は不問會員消息に關する物は特に歓迎。取捨は當方に一任せられたし。編輯の都合に依り全部又は一部來月廻しとなる事あり。
- 一、原稿は特に豫め申込無き限り返戻せざるものとす。
- 一、締切は毎月六日限、特に一月號は一日發行とする爲め二十日締切とす。
- 一、必ず原稿紙を使用、可及的一行十八字詰とする事。
- 一、原稿は開封として二錢切手(第四種百瓦迄)を貼布して送附し通信文があつたら別に葉書等に通知されるが得策である。
- 一、寄せ書の如き出版や銅版にするものは一尺八寸×一尺三寸以内とする事。
- 一、原稿紙は御請求次第送附す。

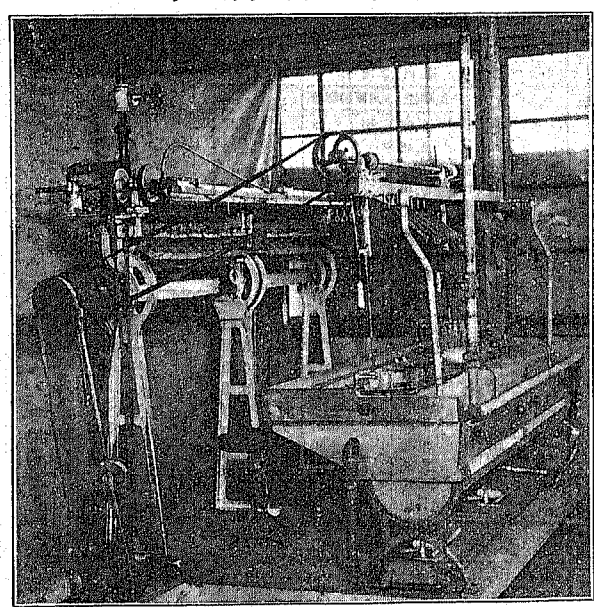
廣告規定

寸法	期間	一月	六月	一年
一頁		1,000	5,000	10,000
1/2頁		500	2,500	5,000
1/4頁		250	1,250	2,500
1/8頁		125	625	1,250
1/16頁		62	312	625
1/25頁		31	156	312

但し本會員は七割引とす。

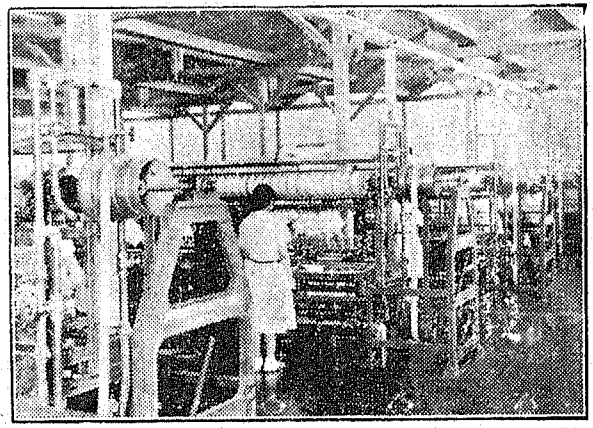
河合藥品器械舖  
 上田市海野町  
 電話二一七番  
 振替長野七八四番

製絲機械商



御指命ニ應ジ技術員派遣設計請負可仕候  
 製絲機械器具商・設計請負  
 會社 宮島商店  
 支店 東京・福島  
 長野野上田(私書函一十號) 電話 長持(田上)一六一番 一八〇番

多條式 大綵宗式 絲綵機



半沈沈綵兩用  
 專賣特許 宗大式 蒸氣滲透對流煮繭機  
 群馬式工製絲機械製造販賣元  
 平山製作所  
 群馬縣前橋市向一〇番五地  
 電話一八五番 振替五七五番 二番